



持田小学校学校だより

オアシス

※学校ホームページは
こちらからどうぞ→



2024年度 第11号
令和7年3月21日
松江市立持田小学校
校長 吉田 卓矢

令和6年度 卒業証書授与式



寒の戻りによって やや肌寒い一日でした。まるで、春になってしまうのを遅らせて、6年生の卒業を惜しむかのような天候となりましたが、3月18日令和6年度の卒業証書授与式を挙行いたしました。卒業生58名は一人一人卒業証書を受け取り、立派に巣立っていきました。持田小学校のリーダーとして下級生たちを引っ張ってくれた6年生は、持田小学校自慢の6年生でした。

「校長式辞」では、6年生の成長や輝いていたことががんばったことを思い返すことができる話をしました。また、「自分の才能や能力を伸ばす才能を磨いてほしい」「持続可能な社会のことを思い続けてほしい」という2つの願いを話しました。一つ目の言葉は、大リーグで殿堂入りしたイチロー選手の言葉です。二つ目は、今年度一年間、6年生が持田小での学びを通して、実感したことや学んできたことです。その学びをこの一年間だけのものになってしまえば、あまりにももったいない。それだけ素晴らしい学びをしてきたので、心に刻んでおいてほしいということです。

上学年が下級生のお世話をしたり、優しくしたりするのは持田小学校の伝統です。しかし、それを当たり前文化となるまで、みんなで創り上げようとしてくれた6年生。感謝の気持ちでいっぱいです。そんな皆さんの姿を見て、4,5年生も次は自分たちの番という気持ちを新たにしてくれたに違いありません。卒業生を送る、歌や呼びかけの一言一句にその思いが詰まっていました。

先生方や地域の方々は、皆さんのことを中学生になっても応援しています。拍手で送られながら式場を後にする卒業生の歩く姿に、自信が満ちあふれているように見えました。中学校での活躍を心から願っています。



卒業生入場



卒業証書授与



来賓祝辞



卒業生見送り

6年生を送る会

2月28日に「6年生を送る会」を行いました。6年生が一人ずつ紹介されながら入場し、正面でかっこいいポーズを決めると、下級生から歓声が上がりました。中には、バスケの超ロングシュートに挑戦するパフォーマンスもありました。

その後は各学年からの贈り物です。6年生との思い出や感謝を込めた呼びかけ、ダンスや歌、玉入れ対決など、気持ちのこもった心温まる出し物が続きました。贈り物の最後は「ちょっと待った～」持田小お約束の掛け声とともに教員のダンスパフォーマンスでお祝いです。

後半は、5年生による「6年間の思い出スライド」「旧担任の先生からのメッセージ」「くす玉割り」と続きました。会全体を通して、温かい空気に包まれ、みんなの笑顔でいっぱいになる送る会となりました。

送る会に向けて様々な準備をしてきた5年生は39名で、持田小学校の中では一番少ない学年でありながら、素晴らしい運営ぶりでした。「次は、私たちの番!!」という意気込みが伝わり、6年生を引き継いで自分たちで学校をリードしていこうという意欲を感じさせてくれました。



思い思いのポーズで入場



心温まるメッセージ



玉入れ対決



キレッキレのダンス



先生たちの贈り物



みんなに見送られて退場



一年間ありがとうございました



保護者の皆様、地域の皆様、一年間大変お世話になりました。教職員一同、協力し、一致団結しながら子ども達の教育にあたってまいりました。いたらぬところもあり、ご心配やご迷惑をおかけしたことも多々あったことと思いますが、持田小学校の教育に対しまして、深いご理解とご支援を賜りましたことに厚くお礼申し上げます。

今年度は、持田小学校創立150周年の節目の年であり、子ども達は、持田小学校の一員であることに例年以上の愛着とプライドを持って学び、成長してってくれました。松江市で一番、楽しくて、幸せを感じることができる学校目指して、努力してくれたことを嬉しく思います。

来年度も、みんなが自分に自信を持ち、友達に対して優しく接することができる優しい心を持ちながら、一人一人が輝いていくことができる「楽幸」を目指して努力をしてみたいです。引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。